

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設13年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にしながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	森下 美紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名	名	1名	1名	2名	1名	名	3名	名	9名

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	センター方式シートをさらに活用するために、センター方式シートの置き場所・記録方法・見直しの時期などを決めることで確実な情報収集ができ、お客様の望むケアが行えるようになる。お客様の日常生活に必要な制度や事業について職員が学ぶ機会を作り資質向上に努める。	センター方式について活用・作成できていない。勉強会も行っていない。 ケアマネがお客様やご家族様から利用にあたり意向を聞き、ケアプランを作成してもらい、利用前のミーティング内で話し合いを行えている。	・センター方式を活用していると記載があり、次年度にも活用していくと書いてあるが、どのように活用していくのか。	センター方式については、新規のお客様や事例検討で必要な場合、検討内容の資料として活用していく。 虐待防止と認知症ケアの理解についての勉強会を施設と町の勉強会に参加し理解を深める。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策を考慮しつつ、お客様が窮屈に感じることのない環境づくりを行う。(テーブル配置、ソファの検討)	テーブルにアクリル板の衝立を設置する事で、お茶の時間や食事の時にも今まで通りお話ししながら過ごして頂けた。天気の良い日には、外でテラステーブルを使用しお茶会やレクリエーション	・設問のNo1についてどのような対策をされているのか教えて欲しい。 ・事業所の中に入るのに、少し入りづらいような気がする。 ・今回は、防災訓練等で中に入る事ができた為、その観点で評価をした。	新型コロナウイルス5類への変更後、お客様の感染リスクを押さえた中でも、徹底した感染対策を実施する。(マスク着用の緩和や軽作業等のお手伝いの開始など)
C. 事業所と地域のかかわり	感染予防を考慮しながら、町の行事には出来る限り参加し、地域との交流が途切れぬよう活動していく。(アクション農園、町の清掃活動、花壇整備等)参加にあたっては、お連れしたお客様だけでなく、そこに参加するすべての方とコミュニケーションを図るようすることで、施設を知っていただく場として活用する。認知症カフェ開催について、再開にむけて感染状況等を鑑みながらその方法を検討していく。	コロナウイルスの影響で認知症カフェは今年中は外部の方をお呼びする事は出来なかった。アクション農園への参加はできなかった。 2か月に1度、職員の活動をメインにしたお便りを作成し、地域に向け回覧し施設の活動について知って頂く機会を作ることが出来た。	・「分からない」としたのは、交流ができることがない為わからないとした。 ・設問のNo3について、対応や相談事をさせて頂けて「はい」と答えた。 ・場所の認知はできていると思う。 ・少しずつ「中子のところ」と言うと浸透出来てきている。 ・近所の方に聞かれると紹介はできる。 ・コロナ禍で評価をしている為、なかなか評価しづらいところがある。	オレンジカフェの再開を目指し、気軽に地域の方々が施設に来て頂けるようにしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	職員一人一人が地域との関わり方を考えられるように、湯沢町の地域資源についての勉強会を行う。 自施設も資源であることを理解した上で、他の地域資源も活用することで利用者本人の生活地域での暮らしを支えていく。	地域資源の部分あまり職員間で把握できていない。 町の地域資源の勉強会など行っていないが、ご近所の方からの情報がもらえる事もある。	・地域の資源については何なのかわかっていない職員が多い。 ・どのような人が来ているのかも、運営推進会議に出て見てもらえるとありがたい。 ・設問のNo4当事業所の営業について、職員が営業できるのか。	町全体を地域としてとらえて、町の行事には参加し、途絶えていた交流を再開していく。 (アクション農園倶楽部への参加や町で行われる行事への参加等)
E. 運営推進会議を活かした取組み	新たに利用の始まった方のケース紹介し、事例検討を行うことで、小規模多機能の利用者の実態について理解を深めていただく。 その中で、お客様への対応について会議メンバーの方より意見をいただき、ケア向上の機会や新規利用者の獲得に繋がる情報共有を行う。 前年度のお客様アンケートの意見に対する改善策の実施状況を報告し、改善に向けたより具体的な意見をいただく場としていく。	事例検討については紹介ができなかったが、会議メンバーの方から質問を頂いたお客様について、会議帯で対応策の検討を行う事ができた。	・民生委員から意見をもらうと、個人情報保護の観点から紹介しづらいのが現状。 ・心配になる方を事例としてあげるのかが不思議に思う所がある。	虐待防止の改善計画について、運営推進会議で報告しメンバーの方から意見を頂き、改善していけるよう確実に実施していく。
F. 事業所の防災・災害対策	健康倶楽部ゆざわが福祉避難所であることを地域の方に知っていただき、緊急時はいつでも頼っていただけることを伝えていく。 上期、下期に各1回ずつ、運営推進会議メンバーに総合防災訓練に参加していただきご意見をいただくことを継続していく。 実際に起きた感染症等の対応について報告し、事業継続計画の見直しの場の一つとする。	2ヶ月に1回広報で、事業所の活動については報告をしていたが、福祉避難所については報告出来ていなかった。 感染症の報告についても報告が遅くなってしまった。	・設問のNo4夜間体制で少し不安がある。人数体制が心配。近所の方々が、健康倶楽部ゆざわに来られるのかが少し心配に思う。 ・何かあるという予防線を常にはっておいた方がいい。 ・メンテナンスはしっかりして欲しい。 ・地域で自主防災訓練をやった方がいいのではないかと。	備蓄品の管理を適正に行い、有事の際に地域の方が来ても適正に対処できるようにする。 上期、下期に各1回ずつ、運営推進会議メンバーに総合防災訓練に参加していただきご意見をいただくことを継続していく。